




発議第 2 号

收受年月日	議長	事務局長	書記
27.12.11			
第 145 号			

平成 27 年 12 月 11 日

埴町議会議長 鈴木 道男 様

提出者

埴町議会議員

小林達信

賛成者

埴町議会議員

大塚武夫

同上

鈴木幸江

同上

鈴木孝則

同上

鈴木茂

同上

藤田高志

### 林業振興（木の町はなわ）に関する決議

上記の議案を、別紙のとおり埴町議会会議規則（昭和 62 年埴町議会規則第 10 号）第 14 条第 1 項及び第 2 項の規定により提出する。

#### 提案理由

木の町はなわの推進に向けて、本議会において林業振興（木の町はなわ）に関する決議をするため提出するものである。

## 林業振興（木の町はなわ）に関する決議

本町の多くの山林は、ふもとから山頂に至るまで植林され、美林が生い茂っている。これは、地域産業発展のため戦後行われた造林事業の成果であり、先人たちは後世のため、身を粉にして森林施業に取り組んできた。

現在、町の森林面積は 17,420 h a で、実に町の総面積の 8 割を占めている。うち約半数が民有林であるが、そのうち 8 割が樹齢 50 年以上で伐期を迎えている。また、本町の素材生産量は、福島県全体の 1 割を占めているなど、名実ともに林業の町である。

しかし、木材価格は昭和 55 年をピークに低下し続け、当時の 3 分の 1 以下になるなど、林業を取り巻く情勢は厳しく、町内木材産業は衰退し、町内各地に存立した製材所も閉鎖に追い込まれてきた。さらに、あの忌まわしい原発事故はこれに拍車をかける様相を呈している。

このような中、里山資本主義という言葉が象徴するように、自然回帰の風潮が生まれつつある。また、技術開発による森林資源のエネルギー化やコンクリートにも負けない構造材としての利用が本格化しようとしているなど、林業に明るい兆しも見えつつある。

私たちは、先人が残してくれたこれらの資産を大切に守り育て、「山から経済循環を生み出し」町民全体に広げるための努力を惜しんではならない。木材生産基地としての役割にとどまらず、すべての地域産業との連携強化を図り、さらには、人々にやすらぎを与える里山としての魅力向上に努めるなど、時代に合った幅広い林業振興を他に先駆けて推し進めるべきである。

これまでも本町は「木の町」を標榜してきたところであるが、「木の町はなわ」の長期展望に基づき着実に歩みつつけるため、次の取組みを進めるよう強く求める。

- 1 公共施設等への木材の積極的利用
- 2 木の町としての将来ビジョンの策定
- 3 ふくしま森林再生事業を契機とした林業経済循環の仕組みづくり

以上、決議する。

平成 27 年 12 月 11 日

埴 町 議 会